

インターバンクの声（2014 年 9 月 22 日）

米連邦公開市場委員会（FOMC）、スコットランドの住民投票、中国アリババのニューヨーク株式市場上場といった大きなイベントを消化し、金曜日終盤の市場は落ち着いた値動きに戻った。スコットランド住民投票の賛成票が過半数を占め、アリババの上場後の価格推移がフェイスブックの二の舞にもなっていれば、こうした週末前の落ち着きはとても望めなかっただろう。その中でも一番ほっとしているのは、ニューヨーク株式市場だったような気もするが、ビッグ・イベントも済んだことで、今後は景気回復と金利上昇のタイミングを計りながら慎重な相場展開になりそうだ。外国為替相場では、スコットランドの英国からの独立が決まらなかったことで、ユーロが割を食ったようにも思えるが、英ポンドも選挙前の水準に戻りつつあり、スコットランド要因で動いた相場から通常の相場展開に戻りそうだ。本邦勢にとって最大の関心はドル円相場の 110 円越えだが、金曜日はあと 55 銭程度のところには達したものの、一旦は利食い売りに押された。数字に波がある米住宅関連指標と複数の米地区連銀総裁の講演内容にサプライズでもあれば米雇用統計発表前の週にも大きな調整が起こる可能もあるが、国内では年金積立金管理運用独立行政法人の運用方針の変更に関わるニュースがいつ何時出て来るのかが気になる。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。